

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



「水都おおさか森林（もり）の市 2022」を開催 ～ 3年ぶりの開催で多くの来場者が賑わう～

【技術普及課】

10月23日（日）、空気の澄み切った気持ちの良い秋晴れの下、大阪市北区の桜ノ宮合同庁舎及び周辺の毛馬桜之宮公園で、「水都おおさか森林（もり）の市 2022」を開催しました。

大阪市は、江戸時代以降「水の都」と呼ばれ、琵琶湖の水の恩恵を受けて発達した水路を利用した交易により、発展してきました。琵琶湖の豊かな水を支えてきたのは森林であり、森林は地域の農山村に住む人々の手で守られてきました。

主催者である水都おおさか森林づくり・木づか

い実行委員会は、事務局を務める近畿中国森林管理局のほか14団体で構成されており、森林の恵みや木に触れることで、森林と人とのつながりを実感し、森林・林業・木材産業の果たす役割や木材利用の意義、農山村の現状について理解を深め、豊かな森林資源を次世代に引き継いでいくことを目指し、今回で34回目の「森林の市」を迎えました。

オープニングセレモニーに先立ち、地元大阪・上町台地にある生國魂神社の神事の太鼓「^{いくにたま}八十島太鼓^{やそしま}」の方々に、「祝

太鼓」を演奏いただきました。太鼓の音は、あたりの空気を震わせ、邪気を払い、場を清め、新型コロナウイルスを吹き飛ばすかのごとく、3年ぶりの開催にふさわしい演奏で、観客から大きな拍手が送られました。

今年は、「地球の森林 守って繋いで 明日へ！未来へ！」をテーマに、近畿圏内のほか中四国や北陸、東海地方から53団体が出展し、イノシシ肉の串焼き、柿や梨、干しシイタケなどの食品のほか様々な木製品の販売や木工クラフトや苔テラリウムなど



太鼓演奏

のワークショップ、森林セラピー体験や木製品おもちゃで遊ぶブース、組み立て式の小屋や移動サウナの実物展示、各団体の取組紹介や大川のドラゴンボート・キッズボート体験など様々な内容で、訪れたお子さんから大人までとても楽しんでいました。ミニコンサートでは、国産材広葉樹で作ったギターの優しい音色やギター弾き語りの「畑下マユ」さんの美しい声が会場に響きました。当局箕面森林ふれあい推進センター職員による創作紙芝居の読み聞かせで



オープニングセレモニー

は、小さなお子さんに楽しんでいただきました。

また、同日行われた「天満音楽祭」の会場の一部である OAP タワー屋外会場や大阪水上バス会場からは、秋風に乗って楽曲が聞こえ、森林の市の会場を盛り上げていただきました。

当日は、多くの方々にご来場いただき、「都会にいとかなか森林とふれあえないため、木に関する知識を深め、木の大切さを知る良い機会だった」「イノシシ肉を初めて食べて、とてもおいしかった」「いろんなブースがあって飽きなかった」「木の香りにも癒された」「雰囲気良く、活気があって楽しい」「いろいろな森づくりの取り組みを知ることができた」など、たくさんのご感想をいただきました。

森林の市が盛大に開催できたことにつきまして、ご来場の皆様、出展いただいた皆様、開催にあたり後援やご協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。



紙芝居の実演



ミニコンサート



庁舎 4 F キッズスペース



キッズボート



いろいろな木のおもちゃで遊ぶ



会場風景

市町村支援メニューに基づく石川県白山市からの要請による職員の緊急派遣（令和4年8月の集中豪雨に伴う民有林林道の復旧に向けて）

【森林整備課、石川森林管理署】

1 はじめに

近畿中国森林管理局においては、管内の各市町村からの森林・林業の技術、国有林との連携した取組、災害対応など様々なニーズに組織を挙げて対応しています。例えば、近年多発する集中豪雨等により被災した林道については、早期復旧に向けて市町村の林道担当者に対し災害申請等の業務をサポートすることや、市町村道が被災し集落が孤立した場合、必要に応じて既存の国有林林道及び森林作業道を生活道路として地域で活用できるよう調整することとしています。

2 白山市への緊急支援

8月3日から4日にかけて北陸地方を中心に降り続いた雨は、降り始めから5日24時までの降水量は石川県白山市河内で398ミリ、白山市白峰で284.5ミリを観測するなど石川県内では記録的な大雨となりました。また、4日明け方から昼前にかけて、白山市では猛烈な雨を観測し、気象庁は、「石川県記録的短時間大雨情報」を発表して安全を確保するよう呼びかけました。

白山市においては、多くの住宅が床上、床下浸水などの被害を受け、ライフラインにおいても停電や断水等の被害が発生し、さらに市の管理する林道においては30路線141箇所が決壊するなど甚大な被害が発生しました。

この度の白山市の林道被害について、白山市から石川県を通じて、林道被害に対する技術的な支援要請が近畿中国森林管理局に対してあり、地元への積極的な支援、災害からの早期復旧の観点から、局森林整備課及び石川森林管理署職員の派遣を行うこととしました。派遣に先立ち9月29日（木）に局長室において壮行会を行い、局長から「安全と健康管理に十分注意し、国有林として白山市への積極的な支援をお願いします」との激励があり、派遣職員を代表して、高津設計指導官から、「白山市からの支援要請に応えられるよう、適切な技術指導に努めます」との決意表明を行いました。なお、派遣期間は、10月2日（日）から14日（金）までの約2週間で、森林整備課からは3名（延べ28人）、石川森林管理署からは同期間中に6名（延べ10人）を派遣しました。



派遣する職員を激励する柏原局長

3 現地での災害復旧に係る技術的指導

林道施設災害復旧事業に係る災害査定設計書作成に向けた支援業務として、現地での復旧方法及び査定設計書作成に係る助言、指導など技術的な支援を行いました。

被災した林道は、林道の原形をとどめていない箇所も数多くあり、被災した林道の箇所ごとに要因の究明と、その要因を排除した工法の指導等を行いました。

（次ページへ続く）

(前ページより)

また、石川森林管理署では、UAV（ドローン）による被災箇所の撮影により、被災の要因の究明と復旧方法の検討がスムーズに行えるよう支援しました。



被災箇所の復旧に向けた工法の検討



設計書の検討



点群測量データを基に工法を検討



ドローンによる被災箇所の確認

4 早期復旧に向けて

白山市は、今回の当局からの技術的な指導等を踏まえ、調査設計を受注したコンサルタント会社が行う設計に対し、復旧の工法等を調整するなど災害申請資料の作成を進め、11月上旬頃から林野庁による災害査定を受けることとしています。

なお、局森林整備課による現地での支援は終了したものの、災害申請に向け必要に応じて引き続き白山市に対して支援することとしています。

5 おわりに

近年、短時間強雨の発生回数の増加や長時間にわたる局地的な大雨の発生など、全国各地で山地災害が激甚化するとともに、同時多発的に発生する傾向にあります。特に、山地の崩壊、林道等の決壊に伴う集落の孤立など広域にわたる大規模な被害も見受けられ、これらの激甚化・多様化する災害を未然に防止する観点からも災害に強い森林の整備等は益々重要になっています。

当局では、引き続き適切な森林整備等に取り組み防災・減災に努めるとともに、地元市町村への災害発生時の支援についても、関係機関と連携して対応していくこととしています。

庄原市立口和小学校の森林教室を開催しました

【広島北部森林管理署】

広島北部森林管理署では、10月12日（水）に当署が庄原市との間でふれあいの森協定を締結している「ふれあいの森釜峰山森林浴公園」（庄原市口和町湯木）において、庄原市役所口和支所と協力して、庄原市立口和小学校4年生21名を対象に森林教室を開催しました。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、一昨年から2年間は、開催を取り止めたことから、3年ぶりの開催となりました。

当日は、少し肌寒いながらも晴天に恵まれ、参加者は、林道入口からふれあい森入口の釜峰神社まで徒歩で移動し、地元の釜峰山奉山会の方から釜峰神社で祭る天狗等の由来をお聞きました。



アベマキの幹の太さを体験

その後、ふれあいの森の遊歩道を散策しましたが、途中で出会ったアベマキの巨木に触れ、幹の太さや木



森林教室の様子

の高さを実感することが出来、自然に親しむ良い機会となりました。

当署では、引き続き口和小学校をはじめとしたふれあいの森協定を締結している国有林をフィールドとして提供し、気軽に森林内の動植物に触れ合うことが出来る森林教室などを開催し、森林環境教育を推進する取組を進めてまいります。

林業と国土保全の両立（現地調査技術研修の実施）

【治山課】

日本の人工林は主伐期を迎え林業の成長産業化、林層の若返り、適切な森林管理も含め、より一層の木材生産が必要です。一方、脆弱な地質と急峻な地形が多く、豪雨も多発する日本において、持続的に安定した林業を行うには、林業と国土保全の両者を高度な次元で両立させる必要があります。



CS立体図による地形判読

林地の崩れやすさや、保全対象へ与える影響を考えず森林施業を行ってしまい崩壊を発生させてしまえば、森林による国土保全効果が失われるとともに、流出した土砂等で人命や財産を失うことになりかねません。

近畿中国森林管理局では、10月17日（月）～21日（金）に森林総合研究所関西支所多田主任研究員の協力を得て、京都府内の国有林において、森林管理署等職員を対象にした現地調査技術研修を実施しました。



微地形の判読（スケッチによる確認）



崩壊に至る粘土化と水分量の確認



湿潤指標（コケ、シダ）



当研修では、崩壊発生メカニズムにかかる森林の微地形（移動体等）判読、湿潤指標（コケ、シダ等）の状況、湧水箇所の想定及びCS立体図等を利用した森林内における危険箇所の把握など、森林斜面のリスク評価を適切に行える技術を習得し、森林施業の実施に当たっての災害リスクに応じた適地適業について、計画立案・実行できる人材の育成に取り組みました。

「令和4年度国有林モニター会議を開催しました」

【企画調整課】

モニターの皆様を現地にご案内し、ご意見等を直接伺う「国有林モニター会議」を10月25日(火)に広島県で開催しました。

近畿中国森林管理局では、国有林について地域の皆様からご理解をいただくとともに、意見交換を通じたご意見やご要望を国有林野行政に役立てることを目的として、管内から応募された方の中から78名の方に「国有林モニター」を依頼しております。

今回の会議では、モニターの皆様の中から10名の方にご出席をいただき、国有林の現場をご覧いただくとともに、意見交換会を開催しご意見やご感想をお伺いいたしました。



仏通寺国有林内の檜皮採取林の説明

国有林の現場では、^{ぶつうじ}仏通寺国有林の^{ひわだ}檜皮採取林において、檜皮採取後のヒノキの幹や檜皮の束をご覧いただき、檜皮採取についての説明をおこないました。

また、民有林直轄治山事業地をご覧いただき、事業の内容等をご説明いたしました。



民有林直轄治山事業地での説明

その後の意見交換会では、今回ご覧いただいた事業地へのご質問・ご感想や、国有林野事業へのご意見・ご要望を多数いただき有意義なものとなりました。

今回の会議でお伺いしたご意見・ご要望については、今後の国有林野の管理経営に反映させるよう努めてまいります。

「第21回森林を考える岡山県民のつどい」

【岡山森林管理署、森林技術・支援センター】

10月22日(土)グリーンヒルズ津山(津山市)において、「第21回森林を考える岡山県民のつどい」(同実行委員会主催)が開催され、岡山森林管理署と森林技術・支援センターで参加しました。

このつどいは、「森林の保全や美しい森づくりを推進するとともに、林業の振興と地域材の需要拡大を図る」ことを目的として、平成12年から毎年開催されているもので、昨年と一昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止されておりましたが、今年度は、検温ブースなどの感染対策がなされ3年ぶりの開催となりました。

今回は、島根大学名誉教授 山下晃功氏による「カーボンニュートラル時代、木育の新時代を拓く」と題した基調講演が開催されたほか、野外会場では、各団体から



木工クラフト作成

木工品・木材の展示販売や木工教室などの催しが行われました。

当署は、つるかご作り、木工クラフト、パネル展示(県内国有林の紹介)を、森林技術・支援センターからは木工クラフト(My箸づくり)、当センターの取組紹介等を行い、各ブース内には多くの家族連れなどの来場者が訪れ、楽しみながら木やつるなどにふれあい、木の温もりや自然の恵みを感じていただく一日となりました。



木工クラフト(My箸づくり)

東京都にある渋谷教育学園の中学生 6名が当所に来所しました。

【奈良森林管理事務所】

10月12日(水)、東京都にある渋谷教育学園の中学生6名が当所に来所しました。この学校のコンセプトは「自調自考」とのことで、学校行事の一環で奈良県に訪れたことを機に、「吉野林業」について勉強したいとの目的で、アポ取りも生徒達自ら行ったとのことでした。

当日は、国有林及び奈良森林管理事務所の説明をした後、日本の林業の発祥とも言われる500年の歴史を誇る吉野林業の特徴を説明し、平成13年に建てられた事務所庁舎にも吉野産の建材がふんだんに使われていることを紹介しました。



説明している様子

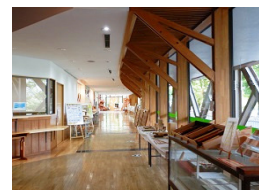
生徒達からは、「後継者問題についてどう考えているか」「林業への新型コロナの影響について」など鋭い質問がありました。当方からは、林業の機械化及び低コスト化、ウッドショック及び木材の輸出など幅広く回答し、最後は記念撮影をして解散しました。



庁舎前での集合写真

お知らせ

森林のギャラリー（局庁舎1階）



【技術普及課】

11月21日(月)～12月23日(金)の展示は、大阪府立環境農林水産総合研究所 生物多様性センター、滋賀県です。

ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【技術普及課】

○令和4年度森林・林業交流研究発表会を11月15日(火)～16日(水)に開催します。

当局職員のほか行政機関や研究機関、高校生の方々から、森林・林業に関する研究取組について発表いただきます。YouTubeによるライブ配信も予定しています。

詳しくは下記をご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/gijyutukaihatu/20170324.html>

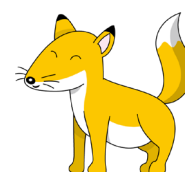
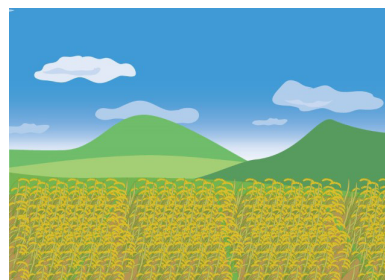


【三重森林管理署】

○大杉谷国有林からの手紙(57通目)を発行しました。

これまでのバックナンバーを載せていますので、ぜひご覧ください。

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/mie/information/oosugitegami_057.html



花草木

【ランタナ】

ランタナ（Lantana; 学名：Lantana camara）は中南米原産の常緑性植物です。開花時期が長く、季節でいえば初夏～秋まで咲き続けます。アジサイのように、小さな花がたくさん集まって咲く愛らしい花姿で、花色は黄色やピンクと、とても華やかです。しかも咲き進むごとに変化していきます。そのため「七変化（シチヘンゲ）」という和名がつけられたそうです。

花後に黒い果実をつけますが、種子に毒成分が含まれています。ランタナの実は小さく、人間や動物は種子を噛まずに果肉だけを選んで食べられないので、果実を食べると激しい腹痛や嘔吐、下痢を引き起こすため食べてはいけません。ただし、鳥類だけは種子を噛まずに食べられ、ランタナの果実をよく食します。

ランタナの花言葉は「心変わり」「協力」「合意」「厳格」「確かな計画」です。



市内で見つけたランタナの花

我が署のスタッフ 京都大阪森林管理事務所 浅井 悠花（あさい ゆうか）（令和3年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

総務グループの経理担当として、工事等の支払業務や物品管理、旅費の取り纏めなどを行っています。基本的に事務仕事なので、現場に出ることはほとんどありません。まだまだ勉強中の身ではありますが、ずいぶん知識が身についてきたと思います。

時折現場に連れて行っていただけることもあります。右の写真は、昨年度にあったそんな数少ない現場での、近畿大学の学生たちに^{みのお}箕面国有林の説明をしている様子です。



学生に箕面国有林の説明をする様子

【職場の雰囲気は？】

少人数のためか、グループ関係なく相談しやすい職場だと思います。分からないことがあれば気軽に尋ねられ、現在の業務とは関係なくとも興味のある研修にも参加させてもらえる素敵な職場です。

【林野庁の魅力は？】

公務員としての安定性と林業の両方を兼ね備えていることです。希望すれば北海道から沖縄まで全国に行くことができ、森林の違いなどを体験できるのは林野庁だけです。

森林事務所紹介

姫路森林事務所（兵庫森林管理署）

首席森林官 岡本 健（おかもと けん）

姫路森林事務所は兵庫県南西部に所在しており、姫路市外4市5町村を管轄区域として、国有林52団地、約3,000haと官行造林地7契約、約500haを管理しています。

国有林は主に都市近郊に小規模に散在しており、都市近郊林によくある国有林からの越境木や危険木の処理、不法投棄の通報や山崩れを心配しているなど、幅広い要望・相談が寄せられます。時には、街路樹を伐採して欲しい、広葉樹の苗木を買いたいなど、問い合わせ先が違う相談もありますが、担当している行政機関等を紹介するなど、親身になって親切丁寧に対応することを心がけています。

目新しい取り組みとしては、令和3年度にセンダンの生育に適している^{ふだらくやま}札楽山国有林において、材木育種センター関西育種場及び京都府立大学大学院と共同で『センダン及びヒノキの混交植栽試験地』を設定しました。面積0.53haにセンダン100本、ヒノキ441本を植栽し、試験木の生長や通直性等の特性評価を行い、針広混交林として成林するかを検証するものです。専門家の意見や技術には感銘を受けることも多く、共同研究の意義を実感しているところです。

また、シカの生息数が非常に多い地域であり、近隣の国有林ではセンダンを食害する外来昆虫のシタベニハゴロモが確認されるなど、わずかな油断で研究成果が得られなくなることも十分に考えられます。病虫害・獣害防止対策は国有林が担当しているため、日々の巡視を強化し、被害の前兆と思われる些細な変化も見逃さないことが肝要だと考えています。これからも、センダンが持続可能な木質資源の一つとして、SDGs時代の花形となる一助になれるように尽力していきます。



シタベニハゴロモ

センダンの木

シリーズ『国有林最前線！』

～治山事業と砂防事業の技術交流会を開催～

治山課

紀伊半島では平成23年の紀伊半島大水害で発生した甚大な被害からの早期の復旧を図るため、近畿中国森林管理局と近畿地方整備局が地方自治体と連携しながら、国直轄による治山事業および砂防事業を実施しています。

10月5日(水)～6日(木)に関係機関の担当者35名が集まり、治山事業と砂防事業の技術交流会を和歌山県内で開催し、今後の円滑な事業推進と技術力向上等を目的として事業の実施状況の情報共有や意見交換を行いました。

技術交流会では、民有林直轄治山事業実施箇所(紀伊田辺地区)、直轄砂防事業実施箇所(熊野地区・那智川地区)の現地検討や、近畿中国森林管理局におけるDX(デジタルトランスフォーメーション^{*})を活用した取組、近畿地方整備局大規模土砂災害対策技術センターにおける研究活動、和歌山県における防災教育など、各機関における先駆的な取組事例等に関する意見交換が行われました。

近畿中国森林管理局では、気候変動に伴い激化する降水形態や近年頻発する自然災害への対応について、今後も関係機関と連携を図り、事前防災力の向上や被災状況に応じた機動的な対応、新技術の導入による効果的・効率的な治山事業の推進に全力を挙げて取り組んでまいります。

※デジタルテクノロジーを駆使して経営や事業のあり方、生活や働き方を変革すること。

<参加機関>

国土交通省近畿地方整備局紀伊山系砂防事務所
 国土交通省近畿地方整備局大規模土砂災害対策技術センター
 林野庁近畿中国森林管理局治山課
 林野庁近畿中国森林管理局奈良森林管理事務所
 林野庁近畿中国森林管理局和歌山森林管理署
 奈良県県土マネジメント部砂防・災害対策課
 奈良県水循環・森林・景観環境部森林資源生産課
 和歌山県県土整備部河川・下水道局砂防課
 和歌山県土砂災害啓発センター
 和歌山県農林水産部森林・林業局森林整備課

計 35名



※UAV(ドローン)を活用して山腹工を詳細に説明



民有林直轄治山事業の事業進捗説明
(紀伊田辺地区)



近畿中国森林管理局による情報提供
(山地災害調査アプリの説明)



直轄砂防事業の現地検討
(熊野地区)